

2016年2月29日

日本移植学会会員各位

保険診療委員長 中川 健

バルガンシクロビル塩酸塩（バリキサ錠）予防投与について

この度、バルガンシクロビル塩酸塩（バリキサ錠）の臓器移植における予防投与が平成28年2月26日に公知申請を認められました。保険適用が可能となりましたが、以下に追加される予定である効能・効果及び用法・用量を掲載させていただきますので、適正な使用をお願いいたします。

一般名：バルガンシクロビル塩酸塩

販売名：バリキサ錠450mg

会社名：田辺三菱製薬株式会社

追記される予定の効能・効果：

臓器移植（造血幹細胞移植を除く）におけるサイトメガロウイルス感染症の発症抑制

追記される予定の効能・効果に関連する使用上の注意：

臓器移植（造血幹細胞移植を除く）におけるサイトメガロウイルス感染症の発症抑制の場合は、発症リスクの高い患者（サイトメガロウイルス抗体ドナー陽性／レシピエント陰性等）にのみ投与すること。

追記される予定の用法・用量：

臓器移植（造血幹細胞移植を除く）におけるサイトメガロウイルス感染症の発症抑制

通常、成人にはバルガンシクロビルとして1回900mg（450mg錠2錠）1日1回、食後に経口投与する。

追記される予定の用法・用量に関連する使用上の注意：

移植後早期より投与を開始し、投与期間は腎移植患者では200日まで、腎以外の臓器移植（造血幹細胞移植を除く）患者では100日までを目安とすること。